



▲太平記の記述を基に中先代の乱に迫った「すわ大昔フォーラム」。約40人が聴講した=8日、諏訪市博物館

## 「逃げ若」で脚光

# 太平記にみる 「中先代の乱」

### すわ大昔フォーラム

諏訪市博物館と一般社団法人大昔調査会は8日、「中先代の乱(1335年)」に焦点を当てた「すわ大昔フォーラム」を同館で開いた。三嶋祥子学芸員が軍記物語「太平記」の記述を基に、北条時行が諏訪頼重に擁立されて鎌倉幕府再興のために起こした反乱について解説。漫画「逃げ上手の若君(逃げ若)で時行や頼重、中世の歴史が脚光を浴びる中、定員いっぱい約40人が

聞き入った。

時行は、鎌倉幕府最後の得宗(北条家嫡流の当主)北条高時の次男。幕府滅亡後、上社大祝諏訪家の人物によって鎌倉を脱出、諏訪氏がかくまっていた。時行を鎌倉から連れ出した人物について、三嶋学芸員は「逃げ若」では頼重と描れるが、太平記は諏訪盛高となっている。この2人が同一人物ではないかという史料もある」と説明した。

1372年ごろ成立の太平記について、三嶋学芸員は「史実とは考えにくい部分、史実と異なる内容もある」と前置きした上で、中先代の乱に関する複数の記述を紹介。後醍醐天皇の建武政権に対して起きた反乱と、その背景や影響について詳述し、「足利軍に勝利して鎌倉を占拠した乱。建武政権を揺るがし、足利尊氏が建武政権に離反するきっかけを作るなど、日本の歴史

を大きく揺るがした大事件とみることができる」とした。

大昔調査会会員で、中世・南北朝時代に詳しい三好祐司さんが聞き手として参加。歴史上の2人の諏訪頼重について問われると、「頼重といえば戦国武将の諏訪頼重で、南北朝の頼重を知っている人はほとんどいなかったと思う。南北朝の頼重がこれほどクローズアップされたのは本邦初ではないか」と語った。

市は秋の一定期間、「逃げ若」をテーマにしたデジタルスタンプラリーを計画しており、金子ゆかり市長と後藤慎二副市長もフォーラムを聴講した。(鮎沢健吾)